

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名 おはなし屋療育園

公表日 2026年4月8日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・メインの活動場所は運動療育がメインで広々使えるよう整った環境を維持している。 ・サークルを上手に使うことで空間を分けたり、思いきり体を動かすときには端に寄せて室内を広く使っているところが良いと感じる。 ・静のコーナー(お絵描き、指先)と運動のコーナー(サーキットなど)をパーテーションで区切り、子どもにもわかるようにスペースが区切られているところ ・1フロアではある、保育との交流でお互いの部屋を行き来するなど工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		・保育の職員と情報を共有しながら、その都度人員配置を行っている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	・分かりやすいイラストを用いたりしながら日付ややる内容を貼りだしてある。いつも同じ場所にあるので、子どもたちが混乱せずに確認することができる。 ・療育のトイレは、水道は、大人用で高めになっている。踏み台を利用し、子供が使えるような高さで工夫されている。	・視覚支援等一人ひとりにあったものを用意しているつもりだが、より充実させたい。 ・水道やトイレの高さが高く、踏み台を手作りで準備している。幅、ぐらつきなど常に安全に配慮したものを準備できるようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・会社として環境整備に力を入れているため、清潔さと、動線考えた環境作りは意識して実施している。また子どもの状況に応じて柔軟に環境を変えている。 ・子どもが帰ってからの掃除と共に、朝の室内の掃除、使用するトイレの掃除は毎日欠かさず行っている。また、トイレトペーパーの長さなどにも関心が持てるように表示がされており、気づいたり気にかけている子はそれを参考にトイレトペーパーを使用している。 ・パーテーションを適宜使用し、子ども達が活動に集中しやすいように対応している。 ・職員全体が日頃から清潔にしようという意識を持っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	・個別の部屋とまではいかないが、パーテーションを使って空間作りを工夫し、個別の時間、クールダウンの時間を保障し安心して過ごせるよう工夫している。 ・フラワーのお部屋を利用し、寝付けにくい子や、クールダウンの必要な子への対応をしている。	・保育園と併設で、場所も共用の部屋があるので、情報交換しながら適宜使えるよう今後も工夫していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	1	・当日参加できない職員にも共有できるツールを使用している。 ・月に1度の振り返りをチャットワークを通して全体で共有し、今抱えている心配事や気になる姿などを確認・共有することができる。	・共有はしているが参加できる職員に限られてしまっていると感じる。→シフト上、参加できる時間、職員に限られてしまったため、タイムリーな時間での参加がなかなか難しい。年間を通して非常勤の職員も定期的に参加できるようなシフト組も検討していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・保護者それぞれの考えや思いを知り、それに寄り添って、より深い信頼関係を築けるように努力している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・月1回の振り返りと共に、日々の日報から子どもの様子や各先生方の考え方、関わり方を知って、自分の関わりや保育に活かせるようにしている。 ・些細な事でも話せる職員関係から、より良くなる様に話し合えていると思う。 ・午睡の時間や空き時間に職員同士で話す時間が多くあるため話し合えるタイミングがたくさんあっていいと思う。 ・特に機会を設けていない時でも、常に意見交換がされている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	7	・第三者の評価は実施していないが、サポート会社からの意見を受け、必要な部分を改善している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・キャリアアップ研修にも積極的に参加し、自分のスキルを上げて行きたいと考えている。 ・常勤、非常勤の区別なく研修の機会がある。	・研修は行っているが療育の知識が身につく研修をもっと受けてみたいと思う。 →サポート会社での研修や自主的に学べる動画での研修などを共有し、個々でも学べる機会を作っていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			

12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9			
13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			・チャットワークにて共有している。
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9			・チャットワークにて共有している。
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9			・月1回インフォーマルなアセスメントを行っている。 ・KIDSでの評価（フォーマルなアセスメント）は一部職員でしか結果を共有できていないので、結果について読み解き全体共有していく。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			・子どもの今の現状、課題をもとに5領域に分類して支援内容を具体的に設定している。 ・具体的な内容になっているので、わかりやすい
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1		・効果のあったプログラムや、今後取り組みたいことなど、意見を日々出しあい、さらに工夫するポイントをあげながら内容を決めている。 ・活動内容を事前に共有し、グループ分け、活動の配分を行っている。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			・どのような運動療育があるのかなど、職員1人ひとりが新たな方法を採り、気になった分野に挑戦していること。 ・保育園児と関わったり、雪が降ったら危険のない所で雪遊びを楽しんだり、その時期にしかできないことも大いに盛り込んでいる。 ・週ごとにリーダーが変わることで職員によって行うことも違うため、子どもの様子に合わせて様々な活動ができていると思う。
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9			・療育だけの集団の他に併設保育園の園児も集まる中規模な集団も意図的に作ることでさらに学びが広がること。 ・午睡の時間を個別の時間にしたり、スペースを区切って集団の活動が強制されていないところが工夫していると思う。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1		・午睡の時間や子どもが帰った後の時間で職員間で話をしたりチャットでの共有はしているが職員が固定ではないこともあり具体的な役割分担など細かいところまでは決められていない。 →リーダーとその他サブとしての大きなくりはあるが、柔軟に対応しなければならない状況が多く、日々の役割は日ごとに打ち合わせをして動く。その分コミュニケーション、連携が必要になるので、マニュアル通りにいかないことへも対応できるような職場体制を作っていく。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			・常に情報をその日のうちに共有している
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			・日報を全職員で共有している。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			・児童も日頃から活動に参加したり観察する時間をとり、ひとりひとりの様子を把握している。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1		・関係機関としてつながった際に、その後も連携が続けられるよう関係性を構築していく。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			・専用の情報共有ノートを作り、情報交換をしている。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			・会議の際に、これまでの経緯や、支援の仕方の工夫などをわかりやすく伝えるようにしている。
	(28～30は、センターのみ回答)				・移行先の学校に見学するなどして、直接話せる関係性を構築し、連携がスムーズにできるよう工夫していく。

関係機関や保護者との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	2	・スーパーバイズという観点だけの機会は設けていないが、会議や見学などで担当者と話ず機会があるため、そういった際に助言をうけ支援にいかすなれば日頃からとっている。今後もそういった機会を大事に連携を図っていきたい。	・子ども〇〇になってしまった場合、どうしたら落ち着けるかなど対応のアドバイスが欲しい。見るだけでなくにも解決しないため、専門家の何かしらの対応策が知りたい。 →具体的な方法について、質問できる機会には情報交換させていただき、全体へ共有する。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9		・併設の保育園とは体操で毎日のように一緒に活動する時間があり、交流の行事なども積極的に実施している。また、連携園との交流会に参加する機会も設けている。 ・あらかじめ日時を決めた交流をはじめ、その日の子どもの様子・興味関心に合わせて柔軟な交流の機会を作っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・登降園の際にその日にあったことを直接お知らせしてコミュニケーションをとる時間を大事にしている。 ・日々の連絡帳でも子どもの変化や成長を理解してもらえるよう専門的な視点で発信することを心掛けている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		・外部で実施される研修などの案内を随時発信している。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		・契約時に重要事項説明書をもとに説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		・保護者の意見、子ども本人の意見を聴取し反映させている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・定期的に、また必要に応じて対面での面談を実施し、悩みや心配事を直接聞く時間を設定し事業所での工夫や、対応方法の提案をしている。 ・エコドリリングで家庭とのやりとりがしやすくなっていると思う。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		9		・こういった形での開催がよいのか検討中である。 →他事業所での取り組みなどを情報交換させていただき、どのようなスタイルがいいか話し合いながら年1回は企画できるよう検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・相談があった場合、すぐに職員間で話し合い、回答している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		・毎月のおたよりの他に、保育園と合同のドキュメンテーションを発行し、こういった意図で活動を展開しているかがわかるよう工夫している。 ・連絡体制については契約時に説明している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・口頭で伝わりにくい時には、視覚的に分かりやすいように工夫している。 ・外国籍の保護者には、母国語のおたよりを別途作成している。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	6	3	・地域の方に野菜作り、収穫に参加してもらったり世代間交流の時間を作り定期的に参加してもらっている。 ・野菜栽培等での交流を通し、普段散歩の際にお会いした時にも、子ども達に温かい声をかけていただいている。		
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・訓練を受ける事で、実際に災害等起きた時に役立つようになっている	・保護者へは契約時に伝えるとともに、毎月のおたよりで職員の研修や訓練などの計画を周知していく。	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・避難訓練の実施	・保育園と合同で訓練を実施し、課題をどの都度見直しをしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・今後も定期確認していきたい。	・発作が起きた場合の記入用紙、救急車の手配、保護者の連絡等の仕方のマニュアルが運用しやすいように準備していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	・現在はないが、適切な対応を心がけていきたい。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・文書、動画、実践と様々な方法で研修を行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・引き渡し訓練を行なっている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・怪我が起きた際には、その日のうちに改善策を話し合い、職員間で共有周知し、保護者への謝罪も当日の口頭と翌日に直接行なっている	・療育、保育、送迎、給食とでヒヤリハットファイルを分けて準備し、些細なことも記録できる仕組みを作り共有する。全員が危険への意識を高めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・虐待や人権擁護についての研修を取り入れている。	・職員の悩みなど相談をうける体制も整え、そういったことを気兼ねなく利用できる職場環境を維持していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		・契約時に詳しく説明している。	